

本指導案は、あくまでも一つの例としてお考えください。今後、支援学校と連携し支援学級の略案様式を検討いたします。

「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案

スマイル学級	教科	国語	指導者	日田 佑太	
単元名・題材名	漢字の復習		時	6 / 全20時間	
本時のねらい	A 小学2年生で学習する漢字を		特別支援学級の年間指導計画に沿って、どの学年の既習漢字を学習するの かを明確に記します。		
	B 漢字の特徴に注目して、				
	C 読むことができるようにする。				
本時の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	【評価の方法】 漢字の読みを言う。	
	【評価規準】 板書した漢字を読むことができる。			特別支援学級では、特性に応じて学び方が変わります。対象の生徒の「できる」部分の力を使って「できない」部分を補っていく工夫を考えます。例えば、視覚優位の生徒の場合は、絵や写真を提示することなどが考えられます。	
展開	めあて	生活の中で使う漢字を読もう。			
	課題	漢字のどんなところに注目すると読めるかな。			
	課題 (めあて) 提示後の 問題解決の 流れ	<b>【課題（めあて）提示後の問題解決の流れ】</b> ・生活の中で使う漢字ってこんなにあるんだな。 ・日記に家族のことをよく使うから、「母」や「父」は読めるよ。 ・「親」は、「立」と「木」と「見」に分解できるな。「木に立って見守る」のが「おや」だね。 ・「親」と「子」の関係のように、とても仲がいいから「したい」って読むって思い出したよ。 ・「晴」は太陽を表す「日」と青い空を表す「青」を組み合わせているから、「はれ」のことだな。 ・「雪」は「雨」という漢字が入っているよ。「雲」も形が似ているよ。天気に関する漢字だということがわかるよ。「ゆき」と「くも」は一緒に覚えるといいね。			
	まとめ	Aさん：一つの漢字を分解して、部品に分ける。 Bさん：複数の漢字の中から、同じ部品を見つける。			
振り返り	・これからは、漢字を分解したり似ているものを集めたりして、意味を考えながら、読み方を覚えたいな。 ・他にも教室の中にある漢字や、生き物に関する漢字などを探してみたいな。				
「C:努力を要する」 状況の児童生徒への 手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】(場面・方法 等)			
	【個】 写し間違いが多くある	・お手本を利き手の反対側に置いて書かせる。			

「個別の指導計画」に書かれた「手立て」を想定して、全ての教科で必要な支援例を示しました。

今回は、在籍2名の設定で作成したので、「まとめ」も2つ記載しました。